

未来につながる福祉活動

《2026年》
7/6

身体障害者福祉協会 白糠分会 プルタブ寄贈

釧路地区身体障害者福祉協議会白糠分会（石田正義会長）は、空き缶のプルタブ20kgを町社会福祉協議会（岸本秀彦会長）に寄贈しました。

石田会長は「多くの皆さんに協力をしていただき集まったプルタブを寄贈します。お役に立ていただければうれしいです」と話し、岸本会長は「並々ならぬ苦勞に感謝申し上げます」とお礼を述べました。



計20kgのプルタブを受け取る岸本会長（右）

ありがとうございます！

《2026年》
7/6

三共舗道株式会社 地域貢献で舗装を整備

三共舗道株式会社釧路営業所（小幡健二所長）は、地域貢献活動の一環で橋北団地駐車場の舗装整備を行いました。

この日は同社の作業員8人が参加し、傷んだ舗装の補修や段差の解消などの整備を、建設機械と手作業で行いました。同社の現場代理人佐藤啓太郎さんは「町の皆さんのお役に立てればうれしい」と話していました。



駐車場入口を整備する作業員

まちの防災力強化へ貢献

《2026年》
7/8

ライオンズクラブ寄贈

白糠ライオンズクラブ（高橋清美会長）は、町に長期保存水40箱（500mlペットボトル960本）を寄贈しました。長期保存水は避難場所の備蓄品として活用されます。

高橋会長は「町の防災対策に少しでも寄与できれば」と話し、棚野孝夫町長は「クラブから毎年の寄贈に感謝申し上げます。今後も防災減災対策の強化に努めます」と感謝の言葉を述べました。



高橋会長から目録を受け取る棚野町長

駅前整備、着々と進行中

《2026年》
7/7

巨大クレーンで 白糠駅自由通路を架設

白糠駅前整備事業として、JR白糠駅の自由通路を架設する工事が行われました。

架設には、北海道内に2機しかない大型クレーンが使用され、列車の運行が止まる夜間の限られた時間の中で多くの関係者が連携しながら慎重に作業が進められると、所定の位置への設置が完了しました。

駅前整備は完成に向けて着実に歩みを進めています。



大型クレーンを使用して行われた夜間作業

弟子屈町の子どもたちと

《2026年》
6/27

海の子山の子 子ども交流事業

本町と弟子屈町の小学生が交流する「海の子山の子子ども交流事業」が行われました。

海岸での活動は、雨の影響により中止となりましたが、西庶路津波避難タワーの見学学習やポッチャを通じて交流を深めました。午後からは、海岸の砂や石、貝、シーグラスなどの素材を使った「海岸アート」を行い、創意工夫して思い思いの作品を作り上げました。



白糠町から15人、弟子屈町から13人の児童が参加

恋問館で楽しいひととき

《2026年》
6/26

身体障害者福祉協会 白糠分会 研修交流会

釧路地区身体障害者福祉協会白糠分会（石田正義会長）の研修交流会が道の駅しらぬか恋問館で開催され、会員16人が参加しました。

石田会長は「恋問館は、車椅子利用者をはじめ、障がいのある方でも利用しやすい施設です。会員同士の交流を深め、互いに支え合いながら今後も元気に活動していきましょう」と会員に呼びかけました。



約2時間にわたり交流を深めた参加者

全力で、心を一つに！

《2026年》
7/4

第4回白糠学園体育祭

第4回白糠学園体育祭が同校グラウンドで開催されました。当日は曇り空で肌寒い天候となりましたが、児童生徒たちは赤組・白組・緑組に分かれて、仲間と声を掛け合いながら、個人・団体競技に全力で挑戦しました。

保護者や地域の皆さんから温かい声援が送られ、会場は大いに盛り上がりました。勝負は、最終競技のリレーを制した白組が見事優勝しました。



学年を超えたチームワークを見せる児童生徒

空の玄関口を鮮やかに彩る

《2026年》
6/30

道道釧路空港線 花壇植栽事業

釧路町村会と釧路総合振興局、釧路造園建設業協会、標茶高等学校が道道釧路空港線の花壇に花の植栽を行いました。本事業は、今年で20回目の実施となります。

本町からは、町職員5人としらぬか花クラブの3人が参加しました。標茶高校の生徒が育てたマリーゴールドなど9種類の花2,400株と同協会が用意した1,170株を植栽し、空港を利用する人を歓迎します。



協力して植栽活動に取り組んだ参加者